



洋上アルプス

No.249 平成27年12月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



湧上九州森林管理局長 7月21日豪雨災害現場等視察



湯泊林道災害現場を視察

平成27年8月7日付けで九州森林管理局長に着任しました湧上和之局長が、11月11～13日にかけて屋久島を訪れました。

11日には雨が降り続くなか縄文杉まで登山し、撤去を予定している展望デッキ（南デッキ）、樹皮剥被被害、大枝ケーブリング、周辺の植生回復対策の現況と今後の対応策等について説明を受けました。

12日には7月21日の豪雨により災害が発生した湯泊林道を視察、被害の状況及び今後の復旧計画等について説明を受けました。午後からは、大川林道沿線のヤクスギ天然更新、間伐（活用型）の現地の状況を視察しました。

13日には、永田地区公益的機能維持増進協定により、外来種アブラギリの駆除対策を実施している民有林を視察、樋口署長から防除の方法及び効果について説明を受けました。また、荒木屋久島町長を表敬訪問し、町長から口永良部島噴火に伴う森林管理局の対応に感謝の意が伝えられるとともに屋久島町に対して協力の要請がなされました。



縄文杉視察(局長:後列中央)

アサヒビールボランティアを開催

11月14日(土)、ヤクスギランドにおいて、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会は、アサヒビール(株)と締結している支援協定に基づく「屋久島レクリエーションの森ボランティア活動」を実施し、アサヒビール他

関係機関並びに一般参加者ら総勢58人が参加しました。

当日は雨天の中、8班に分かれ紀元杉を含むランド内の木道、手摺り等の苔落としや補修など清掃ボランティアを行い、各班の迅速な作業のもと怪我も無く予定した箇所を無事終了しました。

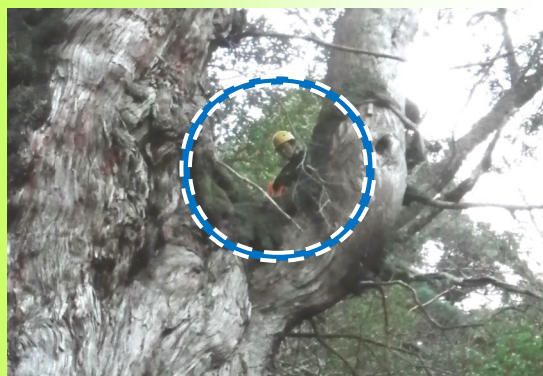


「苔の橋」で清掃



清掃ボランティアに参加した皆様

縄文杉ケーブリングを点検 (11月16~17日)



点検中の樹木医

縄文杉大枝の落下防止のための固定施設（ケーブリング）の点検を、高所作業のできる専門の樹木医など4名が実施しました。

このケーブリングは、九州森林管理局が平成24年に縄文杉上部の健康診断を行った時、東側の大枝の付け根に大きな腐朽箇所を見つけ、折損・落下の恐れがあることから、当面の安全確保の措置として同年12月に高強度なロープを使い大枝落下防止措置として実施したものです。

縄文杉第2展望デッキ設置箇所～現地検討会を実施 (11月27日)

平成28年度、環境省が設置する新たな縄文杉展望デッキの現地検討会を環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島町、町議会、屋久島町区長、屋久島観光協会が参加し実施されました。現地では、環境省が提案する場所へ移動しながら、参加者から設置位置、歩道幅や最盛期の登山者の動線など様々な意見が出されました。この現地検討会を踏まえ最終的な設置箇所を今後決定する予定ですが、右側(北)から見る設置案では、また、違う縄文杉の雄姿も見られるなど、縄文杉ファンには新発見の場所になると期待されます。



説明する田中首席自然保護官

外来種アブラギリ駆除の方法

お問い合わせ先：屋久島森林管理署
☎(0997)46-2111

外来種アブラギリは、先月、「森林・林業の技術交流発表会」で発表しましたが、今回、各種の駆除試験を実施した結果、有効な駆除方法を検討したので参考にして下さい。

屋久島の民有林にも侵入拡大しています。

- ① 樹高の低い**幼苗期**は、**早期に引き抜き**実施。
- ② **伐採時期**は、貯蔵物質が最少になると予想される盛夏時期（**8月下旬から9月上旬頃**）の実施が原則。
- ③ **若齢個体**は、萌芽力が強いので頂芽発生抑制のため、開放地（裸地）ではできるだけ**地際で伐採**。
- ④ **萌芽発生後は、速やかに芽掻き**をするか、**萌芽発生高より下部で伐採**する。
- ⑤ 塩注入の効果は、未定だが生残木もないので、可能性はある。防草シートは、効果をそれほど期待できない。
- ⑥ スギ等人工林の場合、間伐後はアブラギリを上記要領により除去しつつ、他の有用林床木を育成し、又は混交林化し、照度低下を促す。



外来種アブラギリ(幼苗)



外来種アブラギリ(若齢個体)

屋久島のニホンザル研究

—第3回—

調査開始年：昭和49年～

半谷 吾郎 (京都大学霊長類研究所)

屋久島の自然の最大の特徴は、2000メートル近い標高差に沿って変化する、植生の垂直分布でしょう。屋久島のニホンザル研究は、西部林道で主に行われてきましたが、近年ヤクスギ林での研究が進展しました。

1989年に、当時龍谷大学の好廣眞一が中心になって、屋久島全島でのニホンザルの分布を調査する「ヤクザル調査隊」が結成されました。この調査は、集落付近での分布調査、西部海岸から永田岳までの垂直分布調査を経て、1998年以降、瀬切川上流域、標高800 - 1200m付近に長期調査地を定め、この地域でのニホンザル個体数の長期モニタリングを開始しました。現在でも、全国から数10人のボランティアの参加者を募って、毎年夏に調査が行われています。また、わたしは大学院生だった1999年から2001年にかけて、2年間の長期調査を行い、この地域で一つの群れを人付けして、詳細な行動観察に基づく調査を行いました。

「ヤクザル調査隊」による長期調査の結果分かったことは、ヤクスギ林のニホンザルの社会は、極めて安定しているということです。西部林道では激しい群れの栄枯盛衰が見られますが、ここでは、調査が始まって15年以上経っても、同じ群れが同じ場所にいます。西部林道では、小さな群れは赤ん坊が生まれなくなり消滅に至りますが、ここでは小さな群れも、大きな群れも、同じように赤ん坊を生みます。

ヤクスギ林では、海岸部に比べて、果実を食べる割合が少なく、葉がずっと重要な食物です。海岸部では、豊かであるがゆえに、それをめぐってサルの群れどうしで熾烈な競合が繰り広げられ、ヤクスギ林では、貧しいがゆえに、大きな群れも小さな群れも平等に食物を得て、子孫を残しているようです。

「ヤクザル調査隊」の調査地も、屋久島の垂直分布の中では、「真ん中」にすぎません。わたしの研究室の大学院生が、永田歩道上部、永田岳、宮之浦岳までの屋久島最奥部で、サルの調査を開始しました。屋久島のサルの謎は、まだまだ尽きません。(おわり)



「ヤクザル調査隊」調査員の集合写真

屋久島の植物



ハナガサノキ
(アカネ科)

種子島・屋久島を北限として東南アジアまで分布する常緑のつる性木本。屋久島では低山地で見られる。冬に橙色の果実が目立つ。果実は直径1センチほどで、数個が合着してひとつの集合果になっている。人の顔のようには萼の落ちた跡。
花期6～8月、果期10～1月。



「ヤクザル調査隊」
調査員での定点調査の様子

屋久島生態系モニタリング



屋久島南部等の植生垂直分布調査（平成25年度）

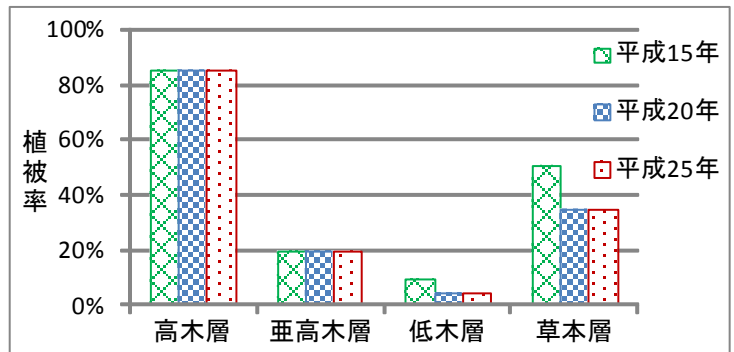
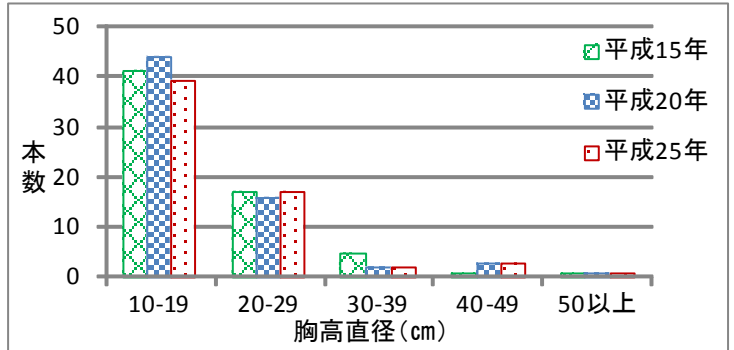
●標高 200 ㍍プロット（湯泊林道沿い）

[高木層] ヒメユズリハ、マテバシイ、モクタチバナ、タブノキ等の照葉樹にスギが混生。**[亜高木層]** ヒメユズリハ、イヌビワ、モクタチバナ、ヤマモモが多く、タブノキ、マテバシイなどが混生。植被率が低く、高木層との階層が比較的はっきりしている。**[低木層]** シマイズセンリョウ、ポチョウジが多く、モクタチバナが続く。前回確認されたヘゴは確認されず。**[草本層]** ヤクシカの不嗜好植物であるタマシダ、ウラジロが多くなっていた。

[胸高直径階別幹本数] 胸高直径 10-19 cmの本数が多少変化したが、旧小プロット内では殆ど変化はなかった。（旧小プロット 10×50 ㍍。新規小プロット（10×10 ㍍）を5点増設。）

[階層別植被率] 高木層・亜高木層・低木層は過年度（平成15年度及び20年度）と本年度で殆ど変わらなかったが、草本層については、経年的に植被率が低下した。25年度も同じ植被率だが、ヤクシカの不嗜好植物のウラジロ、タマシダ等が多くなった。

[調査結果の概要] 照葉樹が優占する広葉樹二次林。ヤクシカの採食圧が強くなりつつあった平成20年度は、スダジイ、イヌビワ、マテバシイ、ヤマモモなどの稚樹が少なくなっていた。25年度はウラジロ、タマシダ等のヤクシカの不嗜好植物が多くなっていた。ヤクシカの採食圧の影響が考えられる。



巨樹・著名木 屋久杉 万代杉

万代杉（ばんだいすぎ）はモッチョム岳から鯛之川の谷に張り出した尾根の末端、風当たりの強いところに立っており、ひときわ大きくなった根元から張り出した根が岩場を抱えています。周辺には大きな樹木もなく、根元が太く背の低い樹形は風に耐える巧みな姿といえます。

万代杉にはサクラツツジが着生しています。



- 樹高：13.2㍍
- 胸高周囲：8.6㍍
- 樹齢：推定3000年
- 標高：800㍍
- 場所：モッチョム(本富)岳登山口から徒歩約1時間